（別　紙）

評価委員からの質問項目について

病院名等　　こども病院

対象の病院	質問項目	回　答
本部・ 全病院	地方独立行政法人化について	
	（1）独法化の活用にあたって、最も取り組んだ課題は何か。また、その成果と問題点は。	○経営改善 病院経営の健全化のため、院内組織として設置した経営企画会議において経営指標に基づいた経営分析を行うとともに、病院連絡会議等において院内の共通認識を図りながら、病院長の指示により経営改善を図った。その結果、平成24年度は3億3427万円の経常利益を計上することができた。 ○職員採用 医師・看護師の採用増により病床数を増加するなど積極的な病院運営を図ることで、患者数が増加し、経営状況が改善された。 医療メディエーターによる医療相談室の設置やチャイルド・ライフ・スペシャリストの採用などにより、療養環境の充実を図るとともに、薬剤師を倍増（20年度6名→25年度11名）することにより、薬剤師による病棟業務を充実し、医療安全の向上を図った。 また、診療情報管理士3名を確保し、経営分析の充実を図った。 ○今後の課題 今後更に、診療科毎の収支状況など、経営分析の精度をより高めていく必要がある。 PICU（8床）については、満床に近い状況が常態化し、予定手術を延期せざるを得ない事例も発生している。 「長野県の重症集中治療救急の最後の砦」として、PICUを増床し、受入体制の充実を図る必要がある。
	（2）独法化後の看護師確保の取組と成果は。	①定数という考えがなくなり、必要な人数を採用できる体制になった。 　新人教育及び定着の点では、教育担当師長を配置することできめ細やかなフォロー体制がとれ、研修の充実が図れている。 新人離職率は21年度13%、22年度16%、23年度0%　24年度3.2%と推移しており、独立行政法人化後確実に低下してきた。 ②修学資金制度により確実な確保が可能になった。 ③機構全体で学校訪問への取り組みを積極的に行うようになった。 　毎年訪問することで、訪問先の対応も変化してきた。当院においては病院長をはじめとした管理者も積極的に参加している。 ④看護師確保が医療全体の成果を上げることにつながるという意識をもった管理者や事務部が共に看護師確保に対して協力的に取組んできた成果は大きい。 ⑤他職種採用（クラーク、病棟保育士）により看護師は本来業務に専念でき、業務の負担軽減にもつながっていると考えられる。 ⑥広報活動による効果。特にこども病院の番組を見た学生は多く、授業に使ってくれた看護学校もありアピール効果はあったと思われる。病院の看護を知ってもらう機会にはなっている。

	（3）今後、看護師確保について、新規戦略で考えていることがあるか。	①新人確保対策としては、2年目看護師の出身校への訪問を考えている。2年目の看護師が出身校に出向き、後輩へ直接メッセージを伝える。 　学生が就職先を選ぶ条件に、先輩看護師がいること、そこで生き生きと働いている姿をみることがあげられている。インターンシップでは先輩との交流から学ぶことがあるとの感想も多い。 ②全体的な看護師募集ではなく、ターゲットを絞った募集。例えば〇〇認定看護師、OP室看護師等病院でほしい人材を募集する。 　ある程度の経験者の応募が見込めるのではないか。
本部・全病院	収支結果について	
	（1）自院の収支結果をどのように思っているか。特に、県からの繰入金相当額がなかった場合の収支結果について、どのように思っているか。	独立行政法人化後、3年連続経常利益を計上（22年度2億547万円、23年度1億5728万円、24年度3億3427万円）するとともに、24年度は過去最高の54億7589万円の医業収益をあげることができた。これは、独立行政法人化のメリットを活かし、病院長を中心とした戦略的な運営や迅速な経営判断を行うことができる様になった結果と考える。 当院は、小児周産期医療の最後の砦として県の3次救急医療を担っている中、PICU、NICUなどを維持するため一定の経費が必要となるが、県の政策医療の必要性に基づき、県から委託を受けて実施しているものであると捉えている。
	（2）自院のレゾンデートル（存在意義）を県民の方々にどのように説明されるか。	県の小児周産期医療において不可欠な組織であり、一定の県民負担について理解をいただける様、病院管理者の県内外病院訪問や、報道機関を通じた病院の業績の周知、テレビ特別番組・公開講座等による県民への周知など、機会を捉えて説明を行っている。
	（3）上の2つの問いに対する回答について、両者の間の整合性をどのように思われるか。	県の小児周産期医療の最後の砦として、県民負担について理解をいただきながら、より効率的な病院運営を図り、患者負担軽減のための治療法の研究等の取組みに繋げてまいりたい。
須坂病院	看護師等の確保について （1）院内保育所「カンガルーのぽっけ」の現在までの成果と、今後の改善点は。	

（別　紙）

病院名等　　こども病院

対象の病院	質問項目	回　答
本部・ 全病院	看護師確保対策について	
	（1）採用に向けて種々の試みを努力されているが、継続に向けての取組（離職率を下げる）について、どのような具体策（勤務時間、勤務形態、家事・育児との両立のための方策など）が講じられているか。	・定着に対する取り組みは重要であり、「働きやすい職場作り」を目標に掲げている。 ・研修体制の充実、目標管理による目標の明確化と課題達成に向けての支援などによりモチベーションの向上を図る。 ・新採用職員家族病院見学会の開催により、家族に病院を知っていただくと共に、新人を一緒に支えていく体制作りを進めている。 ・個人の家庭状況に合わせた勤務形態や勤務時間、夜勤回数の調整などを行っている。また、院内保育所の充実に向けて検討中。
	（2）潜在的看護師が全国で50万人以上いると言われているが、再就職のための研修や労働環境整備の方策は講じられているか。	・再就職支援プログラムを企画しているが、当院は小児の専門病院ということで、プログラム内容が小児看護に関連した内容になっており、実際の申し込みは殆どない ・ホームページで、再就職を考えてる人が相談できる窓口を明記し、個別に相談を受けている
	（3）採用にあたっても、給与体系、労働環境等、他と差別化してアピールする余地はないか。	・医療従事者の育成の一環として、研修会や学会参加の保証など
須坂病院	専門医療の提供について	
	（1）地域医療・専門医療の提供に関し、種々努力をされているが、より専門化に向けて検討する余地はないか。	